

# 図書館だより

National Defense Academy Library Bulletin

2015. 3. 12

主な内容	頁
「読書の勧め」	幹事 陸将 森山 尚直 (497)
教官著書の紹介	地球海洋学科 釜谷 秀幸 (499)
教官推薦図書の紹介	建設環境工学科 嶋原 良典 (502)
図書館サービスを活用していますか? Pt. IV	総合情報図書館事務室 (504)
図書館からのお知らせ	(507)

## 「読書の勧め」

幹 事

陸将 森山 尚直

「防大生の読書意欲を高める寄稿をしてもらいたい。」これが、本稿の命題である。子供の頃を振り返って、夏休みの一番の苦痛が読書感想文であった小職が、学生の読書意欲を向上させる様な読書の魅力を如何に語れば良いのか。悩んだ末、二つの事を述べる事とした。その一つは、「読みたい本を読む。」であり、もう一つは、「推薦してある本を読む。」である。

### 1 読みたい本を読む。

書棚はその人の顔である。

陸自幹部候補生学校の入校時、候補生隊長から官舎に招かれ、その際に教えて戴いた言葉である。書棚に並ぶ本の数々、どの様な本が並ん

でいるかで、その人がどの様な人かが分かる。如何に幅広い視野を求めているか。如何に専門分野への研究心を持ち続けているか。今、改めて自室の書棚を見て恥じ入るばかりである。

そもそも何故、読書感想文が苦手であったのか。その最大の理由は、読書の速度が遅いからである。遅いが故に、読書に時間がかかり、なかなか面白い箇所まで読み進む事ができず、飽きて寝てしまう。読むのを止めるので、読書の速度は向上しない。負のスパイラルである。当然の事として国語の最大の苦手問題は、長文読解であった。

その様な小職であっても、それなりに書棚に本が並べられている。何故、その本を購入し、

読書に挑んだのか。それは読みたい本と出会ったからである。更に言えば、読みたいテーマが出来たからである。顔の輪郭が出来たのかもしれない。

### 読書ノートをつけなさい。

富士学校の先輩教官から陸自指揮幕僚課程(CGS)に入校するに際して、教えて戴いた事である。当時、「読みたい本が何であるか。」を見つけ出していたわけではなかった。先輩は、小職が入校して、それを見つけるものと認識し、示唆を与えてくれたのである。では、その読みたい本は見つかったのか。見つかった。読みたい本とは、読みたいテーマとは、「部隊・組織とは何か？」であり、「人間とは何であるか？」であった。

我々自衛隊の任務遂行は、部隊行動によって達成されるものである。このため、部隊を指揮して任務を達成するためには、先ずもって、「部隊である人間集団は、どの様な特性があり、どの様にしてその力を最大限に発揮させる事が出来るのか？またそもそもその構成員たる人間とはどの様なものであるか？」についての知識が必要である。この事は、リーダーシップを会得する上での前提であると考える。

しかし、「同じ本を読んでも年齢とともに読み方が変わる。」と言われるように、人生経験を積む事で、その本の中身について、改めて深く理解し、得心できる様になる事は多い。このため、その事をより深く理解できる日が来るまで、その言葉を身近においておくことが必要であり、忘れても復習できるノートの存在が重要なのである。

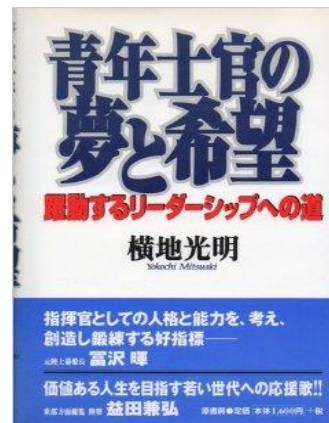
以上の視点から、一冊の本を紹介する。

『青年士官の夢と希望 躍動するリーダーシップへの道』(横地光明著)

「横地元陸将のこの統率指針は、『指揮官の人格』のみならず、『指揮官の能力』の分野にまで広く及び、それらの要点を明確に教示するとともに、統率の現れる形が古今東西、TPOに応じて様々に変化するものであることを、細部に

わたり述べている。

すなわち本書は、読者にその教えを一方向的に伝えるものではなく、むしろ読者の自由な思考を促し、それに十分な資料を与えるものであって、正に近代統率の好指標と言うべきものである。」(元陸上幕僚長 富沢暉氏の巻頭推薦の言葉より)



## 2 何故、推薦してある本を読むのか。

CGSの学生当時を振り返って、非常に良かったと思いきす一つに、自主的に市民大学講座を受講した事がある。夕方の時間帯に行われる10回シリーズの講座では、各界の著名人が内容は勿論のこと正に一流の話し方で、それぞれの専門分野の話をされる。感動の連続であった。何故、その様に感動したのか。新たなものとの出会いがあったからである。

一般的に、自らが、主体的に講演等を選択した場合、得てして特定のテーマに偏りがちである。幅広い視野を持つためには、幅広いテーマに触れる必要があるが、自らの力で幅広いテーマを求めるには、自ずと限界がある。それならば、強制的に与えられるテーマに触れる事で、新たなテーマとの出会いを求める。この考え方は、極めて有効な手法ではないだろうか。好きなメニューを注文するのではなく、日替わりメニューを注文する方が、色々な食事を強制的に楽しめるのと同じである。

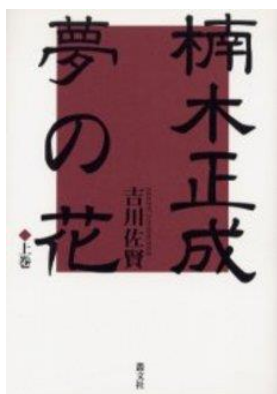
それでは、読書において、幅広いテーマの本を手にするためには、どの様にすればよいか。

その回答の一案として提案するのが、市民大学講座の強制メニューにヒントを得た、推薦してある本を選び好みするのではなく、順番に手にしていくとの方法である。

推薦してある本を無意識に手にすることで、視野を広げる新たな世界との出会いが、そこにあるものと確信する。

以上の視点からもう一冊の本を紹介する。

『楠木正成 夢の花 (上下巻)』(吉川佐賢著)



防大の先輩が執筆したものである。「正成と尊氏。英雄は英雄を知る。政治的都合で様々に捏造された虚像を正し、真実の素顔を発掘活写した不朽の名作。」(巻末紹介文より)

※図書館所蔵図書の請求記号と配架場所

- ・青年士官の夢と希望 躍動するリーダーシップへの道

914.6-Y74

(1階 文学図書配架コーナー)

- ・楠木正成 夢の花 (上下巻)

近日配架予定

~~~~~教官著書の紹介~~~~~

谷口義明監修『新・天文学事典』

(講談社ブルーバックス 2013年)



地球海洋学科 教授 釜谷 秀幸

天文学は人類による農耕の際に暦が必要とされたときを起源とする歴史のある自然科学のひとつである。例えば、紀元前3000年の時点で、メソポタミアでは月と太陽の運行周期が体系化されていた。人類の文明と同時に発生した天空の現象を読み解く学問は、人類の文明の発展と共に、望遠鏡に代表される新しい技術や物

理学・化学的・数学的手法を取り入れ発達することとなった。文化的側面においても、天文学は古典的リベラルアーツ7科の1つである。古典的リベラルアーツとは、ギリシャ・ローマ時代に源流を持ち、ヨーロッパの大学制度において中世以降、19世紀後半もしくは20世紀まで、人が人としてあるべき素養である技芸の基本とされた学問体系のことである。具体的には文法学、修辞学、論理学、算術、幾何、音楽、そして天文学を指す。特に西欧では、教養人としての素養として未だに重宝されている。このように、天文学は人類の文化の根幹を成す学問のひとつととらえることができる。

古典的な天文学は、天体の位置を測定する位置天文学や天体の運動を調べる天体力学が主流であった。その後、19世紀末に分光技術が天文学に応用され、天体物理学が勃興した。星の表面の温度や密度といった物理状態や化学組成、ドップラー効果を利用した星や銀河の運動速度の検出が可能となった。20世紀に入り観測技術の進歩と理論の理解が深まったことより、量子論や相対論の素養も欠かせない時代となった。現代物理学と現代天文学は切り離せない間柄となったのである。第二次世界大戦以降、電波、赤外線、X線、そしてガンマ線などの可視光以外の新たな波長での観測も盛んになった。それまでに無い新しい宇宙の姿が見えてきたのである。現代では、観測衛星や大望遠鏡の時代となり、多波長観測や深宇宙探査も継続的に行われるようになってきている。さらに最近では、ニュートリノや重力波など、電磁波以外の手段を用いた天文学も進展しつつある。加えて、スーパーコンピュータを用いて宇宙における構造形成史を振り返る試みも精力的に行われている。こういった歴史そして現状を鑑み執筆された「新・天文学事典」は、現代天文学における最先端の宇宙像を、まさに現役の研究者が情熱をもって表現した書物となっている。

本書は、「宇宙論からはじまり、いま話題のダークエネルギー、ダークマターから、我々に身

近な銀河、銀河系、星、太陽、星間物質、銀河間物質、さらに最新注目されているブラックホールや宇宙生物学の研究、ロケットや小惑星探査機といった宇宙開発の歴史と未来、天文教育まで、第一線で活躍する研究者が詳しく解説(出版時の帯記載)」されている。各項目を詳細にまとめるには紙面が限られるため、ここでは目次を列挙することに留める。第1章：宇宙論、第2章：ダークエネルギー、第3章：ダークマター、第4章：宇宙の大規模構造、第5章：銀河、第6章：銀河系、第7章：星、第8章：太陽、第9章：太陽系、第10章：太陽系外惑星、第11章：ブラックホール、第12章：巨大ブラックホールと活動銀河中心核、第13章：星間物質、第14章：銀河間物質、第15章：宇宙生物学、第16章：観測技術、第17章：飛行体による宇宙探査と宇宙開発、第18章：天文学の教育と普及と非常に広範な分野がカバーされている。

天文学を広くカバーする本書の特徴をまとめておく。近年の天文学関連のどの書物にも言えることではあるが、例に漏れず図表が豊富である。ただし、図表のセレクション及び作成が、実際の研究現場と直結していることは特筆に値すると考えている。語弊があるかとは思いますが、比較して、見栄えよりも内容を重視したものとなっている。さらに、各章はそれぞれ独立に読めるようになってきている。目立つくらいの数の書物で各章を独立して読めると主張されているが、実際には少数であったというのが筆者の経験である。そのため、少なくとも最初の数章は丁寧に読まなければならなかったのが実情であろう(が、そのお陰で学問を深められた)。本書は、そういった煩わしさは殆ど無いと思っている。興味を持った項目から、ランダムアクセスに読み始めてもらうことができるのである。さらに、このような各章の独立性を保ちながらも、分野間の方言を調整し用語のばらつきを極限まで整理しているため、他の章も関連付けて読みやすくなっている。

さて、防衛大学校の学生にとって、本書はどの様に役立つのであろうか？もちろん、天文学の素養を深めることは、それがリベラルアーツの1科であることから、国際人として活躍すべき幹部自衛官にとり必修である。現代天文学が1冊にまとめられている本書は、うってつけの教養書となるであろう。さらに今後、自衛隊の活躍の場は、地上及び大気圏のみならず、宇宙空間にまで広がる可能性がある。実際、平成26年防衛白書によると、「主要国では、宇宙空間に軍が積極的に関与し、各種人工衛星を活用している。宇宙空間は、国境の概念がないことから、人工衛星を活用すれば、地球上のあらゆる地域の観測や通信、測位などが可能となる。このため主要国は、C4ISR機能の強化などを目的として、軍事施設・目標偵察用の画像偵察衛星、軍事通信・電波収集用の電波情報収集衛星、軍事通信用の通信衛星や、艦艇・航空機の航法や武器システムの精度向上などに利用する測位衛星をはじめ、各種衛星の能力向上や打上げに努めている」。最近のニュースで勇気づけられることに、元自衛官の宇宙飛行士である油井亀美也氏（防衛大学校第36期）が、いよいよ宇宙空間に旅立つことにもなった。今後、自衛官として宇宙空間に飛び出していくことは珍しくなくなってくるものと想像している。こういった時代であるからこそ、本校の学生ならば、本書の宇宙開発、惑星科学、そして宇宙空間に関する項目に目を通しておいて欲しいと思っている。

筆者の担当した章についても少しだけ触れさせていただく。筆者は、井上昭雄氏（現大阪産業大学准教授）とともに、第13章：星間物質を担当した。星間物質とは、恒星間に存在する気体、個体微粒子、そして宇宙線の総称である。宇宙は決して真の真空状態には無く、希薄な物質で埋め尽くされているのである。こういった星間物質の素性を理解することは、例えば、その重力収縮により恒星が誕生することから、銀河の形成や進化の素過程を理解するために欠かせない。そして、恒星周りに生じる惑星の形

成過程とも強く関連することとなる。後者は即ち、地球やそこでの生命とも関わってくることを意味する。つまり、星間物質という分野は、宇宙の輪廻（の一部）を把握するためには欠かせない学問となっているのである。このように重要な星間物質の物理学的・化学的状态に関する概説を第13章で行っている。

今後の天文学の進展に関する私見も述べてさせていただく。現代天文学の最終目標は何なのであろうか？最大の謎は何なのであろうか？筆者なりに思うに、それらは、宇宙の始まり、ダークマター、ダークエネルギー、超巨大ブラックホールを有する銀河中心核、そして生命の起源である。もちろん、本書には、これらに関する興味深い解説がまとめられている。このように、本書はブルーバックシリーズの1巻ではあるが、啓蒙書というより、現代天文学の解説書、教養書の趣が強い。近年実施されている、天文学検定に有用なテキストとしても認識されている。テレビや雑誌などより、もう少し踏み込んだ内容に興味のある読者には非常に適した書物であると著者の一人として自負している。そして、各章を読了した後、関連する専門書に目を通してもらえるならば、より深い内容を速やかに理解でき、宇宙の深淵に少しでも触れることができるものと考えている。

最後に、本書の執筆という素晴らしい機会を与えてくださった谷口義明愛媛大学教授、共著者でもあり研究仲間でもある井上昭雄大阪産業大学准教授への感謝を述べさせていただく。

※図書館所蔵図書の請求記号と配架場所

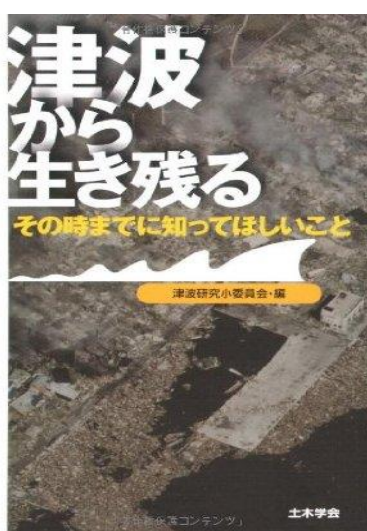
近日配架予定

## ~~~~~ 教官推薦図書を紹介 ~~~~~

## 『津波から生き残る—その時までには知ってほしいこと』

土木学会 津波研究小委員会 編

建設環境工学科 助教 鳴原 良典



今回推薦する書籍『津波から生き残る—その時までには知ってほしいこと』は、津波研究の先進国である我が国の専門家 60 人が、津波災害から生き延びるイロハを解りやすく伝えることを目的としてまとめたものです。いつかはわからないものの、近い将来確実にやってくる津波災害に対して備えるため、第一線で活躍する津波防災の研究者・実務者がわかりやすく説明するとともに、最新の研究成果や具体的な市民による防災活動の事例を取り入れて紹介しています。

本書は、2004 年インド洋大津波が発生してから 5 年後の 2009 年（平成 21 年）に出版されました。その約 1 年半後に発生した東日本大震災によって、我が国は津波の甚大な被害を受けることになるのですが、この本が出版された 2009 年当時は、インド洋津波は日本

の海岸工学の専門家であっても遠い世界の話として捉えられており、世の中も日が経つにつれ津波防災への関心が薄れていました。そのような状況下において、津波に関する研究論文は一般の人の目に触れることが少ないことから、一般の人々にも津波防災についてわかりやすい形で伝えるということを目的としてこの本が作成されました。そのため、津波防災に携わる人のみでなく、学生や一般の人が気軽に読むことに配慮しており、難しい方程式等は一切排除しています。

2011 年の東日本大震災では「想定外」という言葉が流行りましたが、2004 年インド洋津波でも、巨大なタンカーが街中に漂着し、様々な種類の建物が倒壊していることが確認されていたため、津波防災の専門家としては、東日本大震災で発生した被害自体は過去の津波災害で起こったこととそれほど違いはないと感じています（ただし、原発事故は別です）。したがって、この本は東日本大震災前に出版されていますが、普遍的かつ新しい津波防災に関するエッセンスが詰められています。以下では、各章の内容について解説します。

第 1 章の「津波の怖さを知ろう」では、津波の怖さを知ってもらうために、津波被災地の様子や津波の破壊力について説明しています。東日本大震災では、沿岸域の街が津波により壊滅的な被害を受けましたが、それ以前にも、我が国では津波による被害を過去何度も繰り返し受けている事実があります。次に

やってくる津波災害に備えるために、これら過去の災害の教訓を後世に伝えることが重要であるのは当然ですが、この本では、過去の災害の教訓を次の災害に活かすために、どの災害にも共通する普遍的な側面があることと、それぞれの災害でまったく異なる側面があることを理解する必要があることを強調しています。この本にはその手助けになることがたくさん書かれています。

先に述べた普遍的な側面を理解するため、この章では、津波に関する知識のうち特に知っておくべき項目が集約されています。例えば、津波は普段海岸で見られる波とは違って恐ろしいエネルギーを持ち、50cmの高さの津波でも人は耐えられないことを津波の実験などを例に書かれています。また、津波の前兆現象として一般に浸透している（と思われる）「津波はいつも引き波から始まる」というのは間違いであり、津波によっては押し波から始まることもあるため、海岸にいて揺れを感じたら津波を確認するのではなく、すぐに高い場所へ避難する必要があることが述べられています。

第2章の「津波の姿を知ろう」では、津波の発生メカニズムや伝わり方、沿岸域で津波が高くなる仕組みなどの物理的な挙動について書かれています。「津波」の語源として、「津」は船着き場や港のことを意味します。つまり、沖合でそれほど高くない波であっても港内（津）で急に大きくなり、陸地で被害を及ぼすことから「津波」と呼ばれているのです。また、特に皆さんが避難する際に知っておくべき重要な知識として、「津波の進む速さ」があります。簡単な理論から、沿岸では100m走の世界記録程度の速さ（時速37km）であり、陸上で高くなった津波を確認したら走って逃げきることは困難であるといえます。さらに、津波は海底地震のみによって発生すると思われがちですが、海底地すべりや火山噴火活動、さらには隕石衝突によって海水が大きく動かされることによって発生することも

あり、この本では過去に発生した津波の事例からその詳細についても解説しています。

第3章の「津波から生き延びる知恵」では、過去の教訓から生まれた「津波てんでんこ」の悲しい教えや、警報が出て逃げない人の分析などを行い、私たちが津波から生き延びるために何をすべきかが書かれています。「津波から逃れるためには？」の答えは極めて単純で、「地震の揺れを感じたら、津波の来ない高い場所へすぐ避難すること」につきます。我が国では、地震が発生すれば即座に気象庁から津波情報が発表され、この章でも津波警報の仕組みや避難勧告・指示について詳細に解説しています。しかし、情報は常に完全ではなく、待っている間に手遅れになることや、たとえ情報が与えられても、私たちにはその危険性を低く認識することで不快さを取り除こうとする「正常化の偏見」があり、それが避難行動を妨げることがわかっています。この本では、情報を受け取る側の心構えとともに、情報が伝達されていない状況であっても、自らの意思で避難行動をとることが重要であると力説しています。特に、自分は津波のことを良く理解していると感じている方ほど一読していただきたい章です。

第4章の「津波災害への備えを学ぼう」では、行政の取り組みや、家庭内防災会議の勧めなど、津波発生前に私たちが行うべきことが書かれています。いざ津波から避難する際、どのような行動をとればよいかをその場で考えることは意外と難しいものです。この本では、「津波避難訓練」に参加することで「今、地震が来たらどこに避難しようか」とひとりひとりが考えることが大切であること、またその際、津波ハザードマップを活用することや家庭内で話し合うこと自体が防災意識を向上させ、いざというときに災害から大切な家族を守ることができると強調しています。

防大のある横須賀市は関東地方の南端に位置するため、東海地方や相模湾沖で発生する地震・津波の影響を大きく受けやすい地域で

す。今後近い将来確実にやってくる津波災害に対応できる知識が身につく一冊です。是非、ご一読することをお勧めします。

最後に、この本の共著者の一人であり、2014年5月2日に逝去された藤間功司教授（建設環境工学科）についてご紹介させていただきます。藤間教授は1988年に防衛大学校に着任されて以来27年間に渡り勤務され、本学の教育および研究に多大の貢献をされました。特に、専門分野である海岸工学においては津波防災に関する研究に長年取り組み、その成果は常に津波研究の最先端を行くもの

として国内外から高い評価を得ております。また、2011年3月11日に発生した東日本大震災以降、被災地の復旧・復興および今後発生が懸念される南海トラフ巨大地震に対する日本の津波防災対策に尽力されておりました。心からご冥福をお祈りいたします。

※図書館所蔵図書の請求記号と配架場所

369.31-D81

（1階社会科学図書配架コーナー）

## 図書館サービスを活用していますか？Pt. IV

### 総合情報図書館事務室

Pt. IIIで、専用ポータルサイトPANDAの「図書情報」（総合情報図書館ホームページ）から利用できるデータベースを目的別・テーマ別に紹介しましたが、Pt. IVでは論文を作成するにあたり、どのようなデータベースを利用するかを説明したいと思います。

#### データベースを活用する前に

レポートや論文を書く時には、テーマに関連する文献を集めることが重要になります。文献を入手するためには、文献に関する情報「書誌情報」を読み取れるようにならなければなりません。例えば、次のような「書誌情報」を見つけ、本文献を入手したいと思った時は、

大西 健「変質するPK0への豪軍の対応：豪軍文書と東ティモールでの活動を通じた特徴の考察」『防衛研究所紀要』第16巻第2号、73 - 94、2014年

上記の「書誌情報」は、

大西 健 が書いた、「変質するPK0への豪軍の対応：豪軍文書と東ティモールでの活動を通じた特徴の考察」というタイトルの論文・記事が、『防衛研究所紀要』という雑誌の、2014年発行、16巻2号の、73ページから94ページに掲載されている

というように読み取ります。雑誌に掲載されている一論文であることがわかります。巻号やページ数が書かれているときは、雑誌論文・記事であると判断できます。

この文献が防大にあるかどうかを調べる際には、校内専用ポータルサイトPANDAの「図書情報」（総合情報図書館ホームページ）のタブをクリックし、Searchの中の「防大蔵書検索」をクリックし、掲載雑誌のタイトル『防衛研究所紀要』を入力検索し、論文が掲載されている『防衛研究所紀要』の16巻2号が防大にあるか確認します。



サミュエル・ハンチントン『軍人と国家（上）』市川良一訳、原書房、2008年

上記の「書誌情報」には、巻号やページ数が記載されていないものの、出版社が書かれていることから、図書であると判断ができることから、防大蔵書検索のデータベースに署名や著者名を入力検索し、所蔵の確認をしてください。書誌情報の場合は、書名や著者名、新聞記事の場合には日付や紙面など、入手するために必要な項目が網羅されています。書誌情報が読めるようになると、資料がどこにあるか、どのように調べたら良いかが分かります。防衛大学校で所蔵していない資料は、校内専用ポータルサイトPANDAの「図書情報」（総合情報図書館ホームページ）のタブをクリックし、Requestsの中の「ILL申込」から資料の取り寄せの申込みをしてください。所蔵館から取り寄せることができます。

### データベースを活用しよう

データベースを活用して、レポートや論文作成に役立ててください。

例えば、次のようなテーマの論文を書きたいと思った場合、どのように文献を収集するかについて述べたいと思います。

#### 2006年の東ティモール暴動から軍事専門職業主義を考察

最初に、防衛大学校にどのような文献があるかを蔵書検索のデータベースで調べます。この場合の資料は本が主体になります。キーワードは、書こうと思っているテーマから選んで検索をします。単語＋スペース＋単語のand検索で行います。検索結果の数が多い場合には、単語を増やし、より必要としている文献に近づけます。

総合情報図書館では、雑誌論文などの文献情報や新聞記事、判例・法令などを入手できるデータベースを契約しています。

EBSCOhostは、社会・人文・語学・自然科学を対象とする総合的なデータベースです。英語論文の検索になります。必要とする文献検索をする場合、全てのデータベースを選択し、キーワードもしくは雑誌タイトルなど分かっている情報を入力して検索をしてください。フルテキストが付いているのでリアルタイムに文献を入手することができ、便利です。

LexisNexisは、洋雑誌論文・世界各国のニュースなどが検索できるデータベースです。LexisNexisからも文献検索をします。キーワードの入力の方法がありますので、入力方法をよく読んでから検索をしてください。分からない場合は図書館に尋ねてください。

聞蔵Ⅱビジュアル（朝日新聞データベース）では、新聞にはどのように記載されていたかを、調べることができます。創刊号から検索ができ、またキーワード検索で新聞記事の検索ができるため、当時の事が分かって便利です。

ジャパンナレッジで、事典などにはどのように記載されているかを調べます。ジャパンナレッジは、辞典などの他に図書を調べることもできますので、併せて活用してください。

防衛大学校蔵書以外の文献を調べる場合、学外蔵書検索をします。校内専用ポータルサイトPANDAの「図書情報」（総合情報図書館ホームページ）のタブをクリックし、Searchの中のジャーナルオンラインデータベースからの検索になります。主に国立国会図書館の蔵書検索(NDL OPAC)、他大学の蔵書検索(CiNii Article /books)、が考えられます。国立国会図書館の蔵書検索(NDL OPAC)で、キーワード検索の場合は、簡易検索、著者名や書名論文名などがわかっている場合には、詳細検索もしくは雑誌記事のデータベースを利用したほうが、必要としている資料に行きつきます。CiNii booksは、図書や雑誌の検索に使用してください。CiNii Articleは、日本の論文が網羅されています。また、CiNii Articleは、公開されている論文・記事の閲覧ができますが、学術機関リポジトリ(JAIRO)のデータベースを併せて使用することもお勧めします。学術専門誌、論文、書籍、要約など、さまざまな分野の学術資料が検索できるGoogle Scholarもお勧めです。また、Yahoo!やGoogleでの検索は、論文を作成する場合の参考文献として記載する事は望ましくないと考えられますが、Google Scholarは学術文献の検索ですので、参考文献として記載することができます。

東ティモールについての論文を作成するのですから、外務省のホームページから東ティモールについての情報を収集することも大切な手段となります。外務省のホームページに加えて、在東ティモール大使館のホームページからも情報を入手してください。また国連のホームページからの情報収集も必要な調査となります。

これらのテーマに沿ったデータベースから収集した文献や情報を読み、書こうとしている論文・レポートにどの文献や情報が必要かの取捨選択の作業をして、論文の作成に活用します。必要とする文献が足りない場合には、キーワードを変えて同じ文献検索の作業をしてください。どのようなキーワードにしてよいか迷った場合には、ご担当の教官もしくは図書館に相談してください。

簡単ですが、テーマに沿った資料の説明を致しました。書こうとしている論文やレポートのテーマに合ったデータベースを活用して、有効な文献を集め、論文を完成してください。検索方法に行き詰った場合には図書館に気軽に相談してください。調べ方や他大学からの取り寄せなどをご案内します。

## 図書館からのお知らせ

### ① 「ビブリオバトル学生隊競技会」の実施

総合情報図書館では3月5日、読書意識の高揚・書籍情報の共有を図るために有効として各地で行われている知的書評合戦「ビブリオバトル」を昨年度に引き続き行いました。

本年度からは記念講堂にて実施され、学校長以下、四役各部課長、各大隊主席指導教官を招待し採点にも協力を頂きました。

昨年同様に各大隊代表者による対抗形式をとり、発表者の紹介2分、本のプレゼン5分の持ち時間で全発表後に投票を行い、チャンプ本を決定するといった一般的なビブリオバトルのルールのほか、発表時間が1秒遅れるごとに減点をするなど、防大特別ルールも設け競技を行いました。

熱戦の結果は以下の通りです。

| 順位 | 大隊・発表者           | 書名・著者名                               | 得票数 |
|----|------------------|--------------------------------------|-----|
| 1  | 4大隊 2学年<br>塚越 直樹 | 『雑談力が上がる話し方』<br>斎藤孝 著                | 770 |
| 2  | 2大隊 3学年<br>加藤 尚也 | 『つらいときは「やってらんない〜」て叫べばいいのよ』<br>水無昭善 著 | 390 |
| 3  | 3大隊 1学年<br>神木 康誠 | 『日本国家の神髄』<br>佐藤優 著                   | 250 |
| 4  | 1大隊 1学年<br>渡邊 優一 | 『動物農場』<br>ジョージ・オーウェル 著               | 120 |

昨年に続き、第4大隊が最多票を集めて優勝し、学校長から顕彰板等を授与されました。

なお次年度からは学校行事の一つとして実施する予定です。



(写真は國分小学校長(中央)より表彰を受ける優勝4大隊の塚越学生(左から2人目))

### ② 26年度「防大生の、防大生による、防大生のための1冊」年間上位表彰

総合情報図書館では本年度も、「防大生の、防大生による、防大生のための1冊」と題して本科・研究科学生が推薦する本と所感文を選抜し、全学生に学内メールで投票してもらいました。年間12回の配信、合計60冊の中から以下の年間得票数上位5冊を選び、3月5日に表彰を行いました。

| 順位 | 推薦者                | 書名・著者名                           |
|----|--------------------|----------------------------------|
| 1  | 3学年141小隊<br>齋藤 功治郎 | 『戦う者たちへ』<br>荒谷卓 著                |
| 2  | 4学年131小隊<br>三浦 恭平  | 『合コンの社会学』<br>北村 文、阿部 真大 著        |
| 3  | 4学年221小隊<br>石原 拓治  | 『深夜特急』<br>沢木耕太郎 著                |
| 4  | 1学年213小隊<br>伊集院 兼也 | 『13日間—キューバ危機回顧録』(改版)ケネディ, ロバート 著 |
| 5  | 1学年342小隊<br>若松 佐矢華 | 『手紙』<br>東野 圭吾 著                  |

## ③ 「学習相談コーナー」の新設について

総合情報図書館では本科学生の資料収集・レポート・論文作成に関する相談受付窓口として、4月よりカウンター内に研究科後期学生（TA：ティーチング・アシスタント）による「学習相談コーナー」の新設を予定しております。

理工系・文系で毎週各1日、曜日を決めて19:00～21:00の間にTAが学生の相談にあたります。留学経験のあるTAによる英語の勉強の仕方の指導も行いますので、是非ご利用ください。詳細は追って図書館ホームページ等で告知いたします。

## 編集後記

今号では、森山幹事、釜谷教官、嶋原教官から御寄稿を賜りました。心より御礼申し上げます。本号掲載の書籍は、配架予定のものを除き、すべて総合情報図書館に所蔵されています。請求記号と配架場所は、各記事の末尾に記載されています。ぜひ一度手に取ってご覧になってください。

昨年から開始された知的書評合戦である「ビブリオバトル学生隊競技会」は、今回は決戦の舞台を記念講堂に移して、多数の学生の参加を得て開催され、盛会のうちに終わりました。「防大生の、防大生による、防大生のための1冊」にも、今年も多く多くの学生が積極的に参加しています（本号掲載記事を参照）。今春からは、「学習相談コーナー」が図書館に新設されます。図書館がさらに多くの学生に活用されることを願っています。

編集委員長 澤田眞治

NADAL Bulletin Vol.29, No.2

防衛大学校図書館だより 2015. 3. 12

発行及び発行人

〒239-8686

神奈川県横須賀市走水 1-10-20

防衛大学校総合情報図書館 Tel. 046-841-3810

館長 武田 康裕

編集委員

澤田 眞治(安全保障・危機管理教育センター)

入江 史郎(体育学教育室)

多田 毅(建設環境工学科)

編集庶務

寒河江 孝(総合情報図書館事務室)

櫻井 貴夫(総合情報図書館事務室)

連絡先

〒239-8686

神奈川県横須賀市走水 1-10-20

防衛大学校 総合情報図書館事務室

「図書館だより」事務局

Tel. 046-841-3810 FAX. 046-843-3818